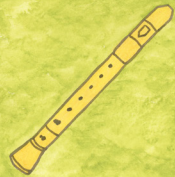


ふえをふくねこ



うちさか そのこ

ふえをふくねこ





あるところに ふえをふくねこが いました。
ねこは ふえをふくのが だいすきでした。



ねこには おきにいりの ばしょが ありました。
それは おかのうえの おおきな木のしたです。
はれた日に こもれびが きらきと ゆれるようすは
こころはずむ うつくしさでした。
ねこは このおかに ひとりで くらしていました。



ねこの うまれたいえは いいあらいが たえない いえでした。

それは おとうさんと おかあさんの なかが とてもわかったためです。
おとうさんと おかあさんは それぞれのかかえる くるしさを いつも
おたがいに ぶつけあっていました。

ねこは できるだけよく、いいつけをまもり、かぞくが なかよくなるようにねがい
できるかぎりの とりよくをしたのですが、そのねがいは とどきませんでした。

みにくい ののしりあいの つづくいえは とても くらく かなしい いえでした。
そこで あるひ ねこは そのいえを はなれることを けっしんしたのです。

ながいたびをして たどりついたのが このおかでした。

An illustration of an open book with a white cover and a grey spine. The pages are white and feature Japanese text. The top line of text is in large, bold, orange characters with a white glow effect. Below it, the text is in smaller, black, standard Japanese characters. The background is a solid light yellow color.

ためしよみ

は

ここまでです